



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



浴衣姿が似合う城崎温泉



七夕まつり



古着ゆかたのリフォーム展



「みんなの傘」の修理

城崎の文化を広げ 温泉街を華やかにする元気人

城崎地域で、善意の傘を設置したり、「ゆかたの似合うまち」をPRするための事業が展開されています。これらの事業の代表者の元気な男性を紹介します。

井本裕人さん(37歳)城崎町湯島

城崎温泉への思いが強く

「城崎温泉には、浴衣姿が似合うでしょう。浴衣にちなんだいろいろな事業をしていますよ」と話すのは、城崎文化フェスタ実行委員会の委員長を務める井本裕人さん。

井本さんは、京都の大学を卒業後、実家の旅館業を継ぐため、26歳のときに城崎に帰って来ました。

「地元に戻って来て、これだけ素晴らしい温泉街のある城崎を守っていかねければいけないという思いが強くなりました」と話す井本さん。

ゆかたの似合うまちへ

井本さんは、平成13年に同会に入会しました。

この会は、平成6年の但馬・理想の都の祭典のときに、城崎温泉を「ゆかたの似合うまち」として、全国に売っていきこうと、「ゆかたのファッションショー」の実行委員会として立ち上げ、翌年から城崎のまちづくりのために、官と民が一体となって結成された団体です。

主な事業は、「みんなの傘」の設置、レンタルゆかた、オリジナルうちわの販売、七夕ま

つり、ゆかたの夢
絵画展、古着ゆかたのリフォーム展
などです。

平成19年から委員長を務める井本さんは「私が入会するまでに先輩方

が数々の事業を展開されてきました。事業を引き継ぎ、ゆかたの似合うまち城崎温泉をアピールしています」と話します。

気持ち晴れるみんなの傘

「みんなの傘」は、もしも雨や雪が降ったときに、誰でも利用できるよう、7つの外湯のほか、JR城崎温泉駅や旅館案内所、市役所城崎総合支所など14カ所に設置されています。

「傘はピンク色で、デザインは柳をイメージしています。梅雨やカニシーズンなどの中には、必ず、会のメンバーで傘の点検や修理を行っています。もし、手元にこの傘を持っておられる方がありましたら、次の方のために最寄りの専用傘立てにお返しください」と話す井本さん。

温泉街を彩るレンタルゆかた
レンタルゆかたは、白地で



▲城崎文化フェスタ実行委員長の井本裕人さんは、魚釣り、B級グルメ研究、お酒めぐり

はなく、カラフルな色地の浴衣を、特に女性の方にレンタルし、浴衣姿で城崎温泉街を歩いてもらおうと始めた取組みです。

井本さんは「レンタルゆかたは、上着を着なくてもいい5月から10月までの間、各旅館などに設置しています。今では、年間を通して色地の浴衣を置いている旅館も増えてきました。色地の浴衣を着られることで温泉街が明るくなったような感じがします」と笑顔で話します。

おもてなしの心で

「古きものを残しつつ、新しいものも取り入れ、おもてなしの心で、城崎温泉の発展のために一歩ずつ前に進んでいきたいです」と井本さんは話しながらも、お客さんを迎える準備に追われています。

広報マンがやってきた!

幼稚園編

1

城崎幼稚園

(城崎)

〈園児23人〉



「広報マンがやってきた」シリーズ第2弾として、今回から市立幼稚園を紹介します。

城崎温泉街の玄関口に位置する城崎幼稚園。円山川や来日岳など自然の恵みに囲まれ、園児たちは伸び伸びと楽しく園生活を送っています。

1月12日、季節の行事「どんど」が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

福が来ますように!

「お正月にお迎えした神様を、今日、みんなでお見送ります」

しめ縄を手しながら分りやすく説明してくれる園長先生の話を、じつと熱心に聞く園児たち。



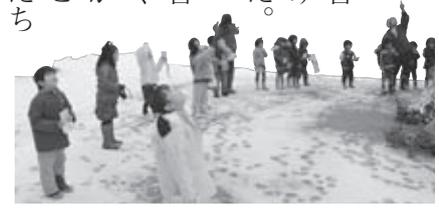
早速、火が付けられ、どんどがスタートすると、「パチパチ」と音を鳴らしながら炎が燃え上がりました。

「悪い虫や病気を追い払うために、パチパチという音が鳴ります」と話す先生。園児たちは、福が来ますようにと祈りました。

天まで届け!

そして、炎の中に、園児たちの書き初めが投げ込まれました。

炎とともに、燃えた書き初めが高く上がると字が上手になると聞いた園児たち



からは、「上がった!上がった!」と歓声が次々に上がりました。

頭も良くなりますように

火が鎮まり、煙だけが立ち込めると、煙がかかれば頭が良くなる

と聞いた園児たちは、その煙に自分たちの頭を向けます。字だけでなく、頭も良くなりますように…。

もちを焼いて 体も心もほっこりと

どんどが終わると、地域の方からいただいた手作りのもちを焼いて食べます。

「本来はどんどで焼くんだけどね」と、今日は先生がホットプレートでおいしく焼いてくれました。「おいしい」と言いながら、虫歯や、病気になることを祈って食べました。体も心もほっこりした1日でした。



顔輪 笑の輪

音楽の楽しさ、喜びを共有 『フリーサウンドオーケストラ』(豊岡)

トランペット、トロンボーン、サクソフーンなどが高らかに響く。

今年結成37周年を迎えるフリーサウンドオーケストラは、管楽器を主体にピアノ、ベース、ドラムを加えた団員21人のジャズ・ビッグバンドです。

今日まで、単独コンサートだけでなく、さまざまなイベントに出演し、明るくパワフルな演奏で、みんなに元気を与えてきました。



▲結成35周年リサイタル(平成20年10月)

譜面の数は千曲以上。豊富なレパートリーと確かな演奏は、多くのファンを引き付けています。そのため、あちこちから出演依頼があり、但馬地域のほとんどのホールを回りました。最近では、他の音楽団体・グループとのコラボレーション(共演)も行い、音楽を共有で

きる喜びを味わっています。また、保育所や学校で演奏することも増えてきました。

代表の松森 淳さん(下陰)は「長い活動の中で、特に印象に残っているのは、竹野南小学校で、アンコールを受けて校歌を演奏した時のことです。

普段ピアノ伴奏に慣れているのか、最初キョトンとして聴いていた生徒たちが『あつ校歌だ』と気付くなり、目をキラキラさせて歌ってくれました。音楽はこういう感動があるからやめられません。これからも、『趣味だけで遊びじゃない』をモットーに、楽しみながら、真剣に音楽に取り組みたいと思います」と熱く語っていました。

(関連記事23ページ)